

心の栄養剤No147-1 「2回目のプロポーズ」

僕のおじいちゃんは、某有名大学出身でとても頭も賢く、運動神経も抜群で、小さい頃はよく勉強やスポーツなど、色々とおじいちゃんに教えてもらっていた。そんなおじいちゃんが大好きで尊敬していたし、誇りでもあった。

しかし、今はおじいちゃんに勉強を教えてもらっていない。

正確に言えば、教えてもらう事ができなくなってしまった。

僕が高校2年生の頃、おじいちゃんは痴呆症になってしまったのだ。

今では、僕の事も、実の娘の僕の母親も分からなくなってしまって、いつも僕たちに、「**初めまして**」とあいさつをしてくる。

唯一、奥さんである僕のおばあちゃんの事は分かっているみたいだったけど、ここ最近になって、おばあちゃんの事も分からなくなってしまった。しかし、おばあちゃんは毎日笑顔で、懸命におじいちゃんの世話をしていた。

今年の年初め、家族みんなが集まって家でごはんを食べようとなり、久々に家族全員で集まることになった。

家族の誰一人分からなくなってしまって、とても緊張をしているおじいちゃんに、おばあちゃんが笑顔で家族のみんなを紹介していった。

すると、いきなり、おじいちゃんは真剣な顔をして、おばあちゃんに向かって話し出した。

「あなたは、本当に素晴らしいお方だ。

いつも素敵な笑顔で、僕に笑いかけてくる…

あなたが笑ってくれたら、僕はとても幸せな気持ちになれます。

もし、独り身なら、ぼ、僕と結婚してくれませんか？」

家族全員の前でのプロポーズだった。

2回目のプロポーズに、涙をぽろぽろこぼしながら、おばあちゃんは笑顔で、「はい」と答えた。

心の栄養剤No147-2 「旦那の記憶に私はいない」

今日、旦那の両親から離婚届を渡されました。

「貴女には幸せになって欲しいから」って。

私の旦那さん、若年性アルツハイマーという病気で、施設に入ってるんです。勿論、私は離婚する気はないので、丁重にお断りました。

私の幸せは、旦那の隣で生きていく事。離婚なんて有り得ない。

記憶がなくなってしまい、**ただでさえ孤独な旦那を、離婚してさらに独りにしちゃうなんて、私には出来ない。**

もう、旦那の記憶には私も、私との思い出もない。

でも、思い出話をしてあげると、何も言わずに、凄い穏やかな顔で微笑んで聞いてくれる。話し終わると**「素晴らしいお話をありがとう」**って言う。

その素晴らしい思い出を作ってくれたのは紛れもなく、あなたなんです。次は私の番です。

あなたの記憶は日々消えていき、残りませんが、1日1日あなたと過ごす時間を、あなたに素晴らしいと思ってもえるようにするから。

記憶がなくても、あなたはあなた。

ずっと愛してますよ。

現在、認知症人口462万人、65歳以上の7人に1人と言われ、2025年には700万人を超え、65歳以上の5人に1人が認知症となるとの予想も出ています。

暗い辛い話ですが、実際キュートでも多くの切羽詰まった御相談があります。

そんな状態で、今回の「心の栄養剤」の話のように、御主人が奥様が、そして御家族の方々が深い愛情で対応されている姿に、目頭が熱くなるほど度々感心し感動すら覚えます。

発症しなくする養生に心掛ける事も大切ですが、それ以上に妻を～夫を～家族を常日頃より大切にして、お互いに**「無償の愛」が当たり前な生活を送れるようになる事が一番大切だと思います。**

精進しなくては！！

